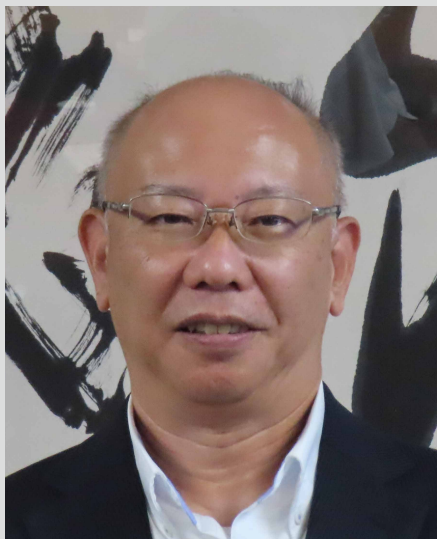


# かお・人・interview

2026年8月24日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
筑後川ダム統合管理事務所長

## 川邊 英明氏

KAWABE Hideaki

北部九州の暮らしや産業を支える筑後川。その豊かな水を安定的に届け、洪水から流域を守るため、治水・利水を担うダムの役割は大きい。気候変動による豪雨の激甚化や渇水への対応が求められる中、筑後川ダム統合管理事務所は、松原ダム・下笠ダムを一体的に運用するとともに、杖立地区のかわまちづくりなど地域振興にも注力。筑後川流域の安全・安心を支える管理の現状と今後の展望について、川邊所長に話を伺った。

### Q 所長就任にあたっての抱負

ダム管理事務所への勤務は今回が初めてですが、筑後川流域の安全・安心を確保し、豊かな暮らしと地域の発展を支えることが、筑後川ダム統合管理事務所の重要な使命であると認識しています。近年、気候変動の影響等により、豪雨災害の激甚化・頻発化や渇水リスクの増大など、水を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況を踏まえ、関係機関や流域の皆様との連携を一層強化し、筑後川流域全体を見据えた適切かつ的確なダム操作・管理に努めてまいります。また、ダム施設を将来にわたり安全かつ確実に機能させるため、日々の点検・維持管理を着実に実施するとともに、施設の老朽化への対応や新たな技術の導入・活用にも積極的に取り組んでまいります。さらに、災害時に迅速かつ的確な対応ができるよう、訓練や情報共有を充実させ、職員の技術力・危機管理能力の向上を図ります。

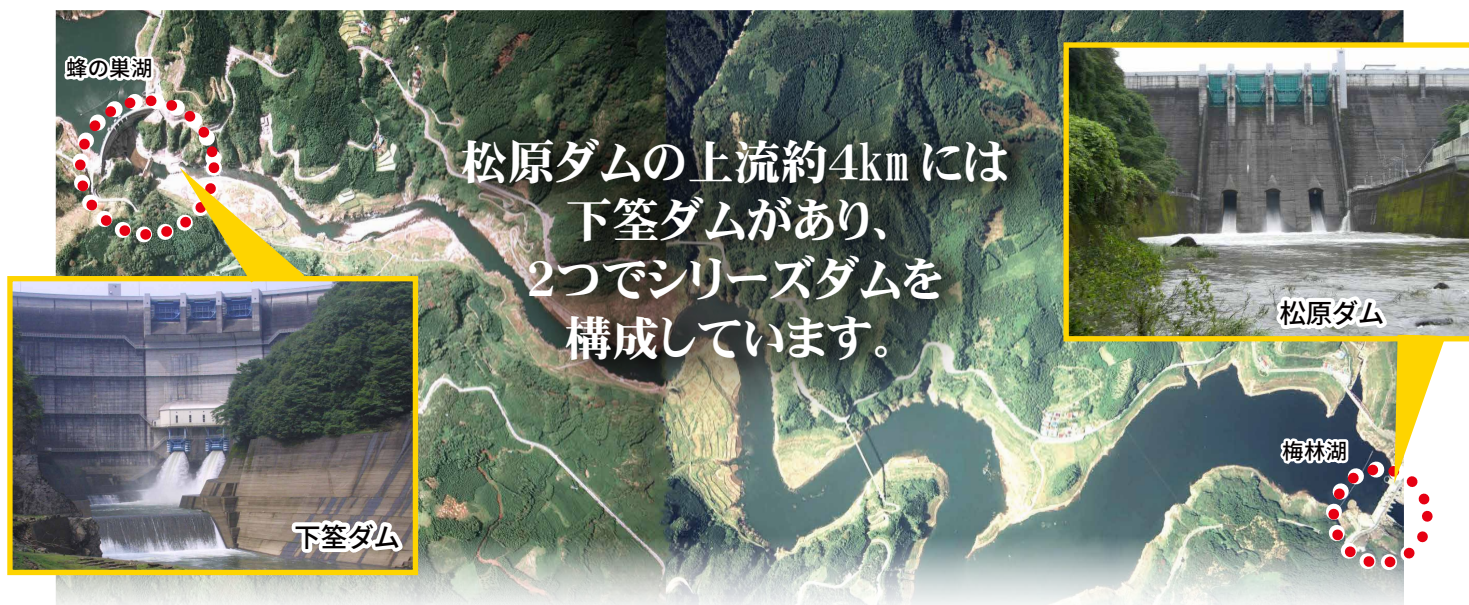
筑後川は、地域の皆様にとってかけがえのない財産であり、治水・利水の両面からその恩恵を未来へつないでいく責任があります。職員一人ひとりが高い使命感と責任感を持ち、互いに力を合わせて業務に取り組むことで、地域から信頼される事務所を目指します。筑後川流域の安全・安心と持続的な発展のため、関係機関、地域の皆様と力を合わせ、誠心誠意、職務に取り組んでまいります。



▲九州北部地図

### Q 福岡県や九州地区との関わりについて

入省以来、九州・沖縄において、災害対応をはじめ、河川、砂防、ダムなどの社会インフラ整備に長年携わってきました。令和3～4年度の2年間は、九州北部豪雨復興センター長として、福岡県朝



倉市の赤谷川流域における河川・砂防の復旧・復興事業に従事し、被災地復興の最前線で指揮を執りました。また、令和5～7年度の3年間は福岡市へ出向し、総務企画局部長として水資源対策を担当しました。福岡都市圏約260万人の水の安定供給という重要な課題に向き合い、水行政に携わりました。そして今年度からは、これまで培ってきた経験を生かし、筑後川流域の治水・利水を担うダム管理業務に取り組んでいます。

## Q事務所の紹介

筑後川ダム統合管理事務所は、国土交通省が管理する松原ダム・下笠ダムに加え、独立行政法人水資源機構が管理する大山ダム、寺内ダム、小石原川ダム、筑後大堰などを統合管理する事務所です。これらの施設を一体的に運用することで、水系全体を通じた効果的な洪水調節と水資源の有効利用を図り、北部九州の水管理の中核的な役割を担っています。

事務所は、幹部、3課、2管理支所で構成され、職員および期間業務職員を合わせた23名が勤務しています。下笠ダム管理支所は令和5年度から、松原ダム管理支所は令和7年度から、それぞれ水資源機構へダム管理を委託していますが、事務所と各管理支所が緊密に連携し、一体的な管理体制を維持しています。

## Q事業概要について

筑後川は九州最大の一級河川であり、上流域では水力発電、中下流域では九州最大規模の農業用水として広大な水田を潤すほか、福岡都市圏、福岡県南部、佐賀県東部へ水道用水を供給し、約380万人の暮らしを支えています。松原ダム、下笠ダムは50年以上にわたり洪水調節機能を担い、下流域の浸水被害軽減に貢献してきました。今後は、施設能力を上回る洪水にも対応できるよう、既存ダムの有効貯水容量を最大限活用する事前放流の取り組みを強化していきます。

## 【洪水対策】

近年、気候変動の影響により豪雨や台風の激甚化・頻発化が進み、洪水被害のリスクが高まっています。このため、ダムの治水上の役割はますます重要となっています。ダムは降雨時に河川へ流れ込む水を一時的に貯留し、下流への流量を調節することで洪水被害の軽減を担っています。令和2年7月豪雨では、管理開始以来47年間で初めて下笠ダムにおいて異常洪水時防災操作（緊急放流）を実施しましたが、下流への影響なく操作を完了しました。

松原ダム、下笠ダムは、筑後川流域の全ダムが有する治水容量の80%以上を担う基幹施設です。両ダムを含む既存ダムの事前放流など、運用の高度化



▲R8年7月大雨による松原・下笠ダム洪水捜査の効果

により治水機能の強化を進め、安全で持続可能な地域づくりを支えています。

#### 【低水管理・かわまちづくり】

筑後川ダム統合管理事務所の低水管理とは、渇水時に河川流量を維持し、河川環境や農業、水道、工業用水に必要な水を確保するため、ダム群を統合的に運用する業務です。近年、気候変動の影響により降雨の偏在化が進み、渇水リスクも高まっています。令和7年12月からの渇水は平成6年大渇水を上回る少雨となりましたが、皆様のご協力により、大きな被害なく令和8年7月に渇水対策を完了しましたが、再び少雨傾向が続いています。

令和7年から開始した杖立地区（杖立温泉）のかわまちづくりは、熊本県小国町の杖立川沿いに形成された温泉街の歴史や景観、温泉資源を生かし、河川空間とまち空間を一体的に整備して地域活性化を図る取り組みです。これまで地元の皆様との協議を約70回重ねてきました。令和8年8月に国土交通省に登録されることになりました。



▲水郷日田を彩る温泉街の夕暮れ（日田市提供）



▲空を埋め尽くす鯉のぼり（杖立温泉）



▲かわまちイベント（杖立地区）

や、技術継承、人材不足といった課題の解決が必要です。また、建設業に携わる方々が将来展望を持てる環境づくりも重要と考えています。私達も制度改正への対応や発注方法の改善などを通じて、業界の意見を丁寧に反映し、現場の声に寄り添った行政運営を進めていきます。

#### Q 趣味について

土木に向き合う日々の中で、いつしか仕事で培った視点が趣味にもつながっていきました。先達の方々が築いた土木施設を見ると、その形や細部に込められた意図や背景に目が向きます。例えば、「なぜ、ここで排水勾配を変えたのか」「なぜ、用水路の中に石が置いてあるのか」といった小さな違和感が、その土地の条件や、先人たちが積み重ねてきた工夫を知るきっかけになります。構造物だけではありません。自然や環境の変化にも目を向けています。目に見える現象や形には理由があり、そこには土地の特性や、その時々の変化が反映されています。

こうした姿勢の根底にあるのが、「人をつくるのは人である」という考えです。優れた技術や仕組みも、それを生み出し、磨き、次の世代へ受け継いできたのは人です。人から学び、人を育て、技術や知恵を未来へつないでいくこと。それが、自身の役割の一つだと考えています。

#### Q 地域との連携・協働について

災害時に備え、早期からの訓練や地域住民を対象とした放流警報サイレンの吹鳴試験を定期的実施するとともに、地域の声を取り入れながら継続的な改善を図っています。DXを活用し、よりきめ細やかな行政・地域一体の防災体制の強化を目指しています。

#### Q 地域建設業への要望・メッセージ

建設業は、地域のインフラ整備・維持の担い手であると同時に、地域社会の安全・安心を支える「地域の守り手」として、必要不可欠な存在です。

建設業界では、生産プロセス全体の高度化が求められており、ICT、AI、BIM/CIMなどを活用した生産性の向上

#### プロフィール



福岡県出身、58歳。  
H3年 4月 建設省（現・国土交通省）入省  
H28年4月 九州地方整備局 遠賀川河川事務所  
工務課長  
H31年4月 河川部 河川工事課長補佐  
R3年 4月 筑後川河川事務所  
九州北部豪雨復興センター長  
R5年 4月 福岡市 総務企画局 水資源対策担当部長  
R8年 4月 現職